園圃乃抜菜

上

ホ 2
636
1

竹邨茂雄大人著

園圃乃抜菜

江戸書肆　萬笈堂梓

門 加2
號 636
巻 1

序

そもそもふのぬき菜

此書いにしへ流れはかるかきあつめる系詞の園圃の中より
うしまるるしのこの、ふとをこうろえるまくはなる系詞とる
をいさゝかぬきいて、俗解をくはへ打系なわそもく
ことはい古人のさまゝよはるは打系俗をこゝそれこう
乃をいまるへきことゝ注釋をそへていなかゝよこう
乃えたかひとなるふゝ老もはこれ系なれい詞のそのふ
まい古書ようえるかきわをおとゝこゝはことなく上
下の段、きそゝくはゝくかきるつひとゝことを

帝國圖書館藏

ゑあまくひいたるおのほかそのゑをさとれるゑ
ぬへくゑをしてえさくぬことなくといときことをい
そへさわなわさとそのの書いあるゆゑ物の名よりつの
ことわさをいたるまくことくをきそそのゑの名まき
のついてをくはくたるいそのゑいくおほ
くてはよあくわてなるわかゑとさかくこゑゑ乳まに
やをかくれいかくゑをもくことをきゑはふきて注釈を
まことはまくなる二光をかきなくたるなわことをもく
なるかきなくつゑいくそのゑさるかなくぬをと

おほかわぬへくそいかの詞のそのふの書よりわて考へ
たくてよ

竹村茂雄

宮内省圖書寮

園圃のぬき藁上巻

凡例

○此註釋い詞の意を初學はとゝの心得をきやすからんかを
氣かゝめ。さて詞いと〳〵よ時ちかくなりをおぼえをいづれ
よ字はつかはるまそは意なれかはぐる俗言ゆまれ字音
なまれあてさきに〳〵いわるそいまをさ〳〵考
き澤言もあるぬべきさまよ言るおもくれかるねど。こゝまを
いよ〳〵あんとおそふもかゝるかぐるきこと
はおぼえいはばかりはたかるとこれまく考そは意よ

よくかよふ詞をくわしくはら

○古語物名などは其意の解かるきをおのゝ註あるは考へ考ふるあまくいまくしまくしどそは四方よりこゞくくしるるもいことなるれいはゞそはおほかをゝみあぐくくはしきことい詞のそのふよりはしめて

○をべて譯語はそは詞の意をかふことを專とするゆゑ・をふの鄙俗の言葉まこと国風の詞をまぐまくわかるかきことをおぼるめべし・例の詞のそはふよりくわきまへてよ

○あ

一音

・あ　畔ハ田のあゼを云　・あ　吾ハわ社を云

二音

・あご　吾子ハわが子をいふ詞にて我子なるぬ者を親みて云　・あセ　吾兄ハ夫にまれ兄にまれ他人にまれ女より男を尊ぶ親しみて云称なり又男をもいひ稱にはをさるを云　・あそ　阿曾朝臣の畧語　・あた　恐ハハ・あて　高貴ハけだかきを云　・あと　足音ハあしおとの畧語　・あへ　饗ハ酒食を設て人をもてなすをいふ　・あえ　肖ハあやかるを云　・あえ　阿要ハあ西系とをいひて菓子などの熟もるを云

三音

・あがあ　吾ハわ社と云ふ日　・あが社　吾兄ハ吾兄ふ日　・あがつ　班ハわかつふ日　・あが社　退散ハ去ぞきさ系を云　・あきえ　賜ハあき社ふ日　・あき社　俗ふいふ・あこえ

距い鶏雉などのけづめを云 ・あさい朝宿ハあさ寝を云 ・あつか東草ハ大葷宮の忌物なり

・あと〳〵納来ハ妻むかふる時のゆゐい社を云 ・あと〳〵誘率ハいざなふを云 ・あはぶ栗田ハ栗畑を云 ・あらか殿ハ宮を云 ・あしじる馬酔花ハ山野よあもこと花を云 ・あらき殯ハ新よ死たる人を葬ら ・あらゝ阿邏々ハあらあらざる間納めおくを云 ・あゑ饗ハ人を餐應もるを云 ・あそゝ安蘓々ハ浅々と云よ同 ・あけ散いちゝはなたゝを云 ・あさ〳〵浅〳〵きを云 ・あざれ俗よされと云よ同 ・あぶけあぶ〳〵しきを云 ・あづま和琴ハやまと琴を云 ・あつい廷ハうゝこなし煩を云 ・あのよ後世を云 ・あはせ俗よ食物の菜と云 ・あばめ輕め侮ると云 ・あばれづ家垣などの荒れたるを云 ・あやめ和らかあやしむ ・あゑかよわ

よわゝきを云

四音

・あぐみる跌坐ハ俗よあぐら ・あけぐれ明晩ハ夜よりあるとの云よ同 ・あげまき時を云 ・あげまき總角ハ髪を結ぶ ・あげまき總角ハ髪を結ぶ小童を云 ・あげはり幄ハ屋の如く上よはる幕よて横をかよはりてい ・あきとし得言ハ小児の初語いふさまを云 ・あきじし清盲ハ目の開ながゝ見えぬを云 ・あさひこ朝日子ハあさ日を云 ・あをぐも青雲ハ大そゝの雲く見ゆるを ・あさとで朝出ハあさいでたつを云 ・あゝかび葦牙ハ葦の生初の芽を云 ・あしづゝ蘆管ハ蘆のよを云 ・あぜくら校倉ハ方なる木をおの違へて井楼の如くくみあげて木の角を外へあらはせる蔵 ・あゝよ惜夜ハをゝき夜と称美ていふ ・あらゝ惜ハをゝきを云 ・あづ

まや東屋ハいやしき家を云和名抄ニ四阿とあるハ次の雨下と訓を遠へたるなり西下のかゝあづまやなるへしと或人・あつし北ハ麤弱ハ人の痩お・あつしくそこもいつゝ毛ハとろへたるを云

はかとなく煩を云・あとらひ眺ハ人ニ託し・あとゝしゝ卒ハ卒ひるを云

・あなを忘苗裏ハ子孫をいふ・あなを忘足の末を云・あなあむ足悩ハあるきなや・あなゝひ麻挂ハ俗ニ足ハ物こむを云・あなゝひ阿奈々比代といふ物こ

・あなづる侮ハあなどりこ云・あさぶる栗田ハ栗の生畑を云・あばらや亭ハ戸障子などをなき家をいふ・あしむべ相嘗ハ神祇官ニて仲冬上卯日ニおこなふ祭の名・あまづら甘葛奠ハ甘茶をいふ・あまばゝ海濱上ハ海の・あまなひ和ハ和融をいふ・あまぎる天霧ハ空の霧ほゝをを云・あまぎるくもりを云・あむづち射埴ハ弓のあづちを云・あめうし黄牛ハ毛の黄なる牛を云・あゝらぎ蘭ハあゝらかなる葱といふ名ニて今のねぎを云・あらゝき阿良々岐ハ齋宮忌詞ニ塔をいふ・あらしね荒稲ハ穂なゞらある稲を云・あらたへ荒妙ハ古ハ麁布をいひしを今の京ニてい麻布をいふ・あゝしを阿良志乎ハ荒男を云・あゝちを荒男を云・あらそめ退紅ハ桃花色ニ染なるを云・あゝをと鯧ハ鯧ハ白ニて米穀を云・あゝまきくゞけなる米穀を云・あゝまき苞苴ハ魚鳥菓子などを・あゝぎぬ阿理岐奴ハ鮮なる衣をいふ・あゝ菓蔵などニて包るを云・あゝ消息ハあゝさかたまと云ニ月・あわしほ白鹽ハ常の塩を云・あをうま青馬ハ正月七日ニ天子の所ら・あを青摺ハ神事ニ小忌の諸司ンずる白馬を云・あを青の着る山藍ニて摺れ衣服を・あさとり朝鳥ハ朝飛翔る鳥を云・あらかね荒金ハ舎根ニて玉とつゞけ・

あらたま荒玉い阿多良阿多良麻の約よて阿多良ハ年月の移ゆくをいひ麻い間をいひて年月日など
とはぐ・あぢむら味村い味鳥の群を云・あざはあ紋ハまとひかかわ〻をいふ
・あかばな紅粉を云・あか〻めよそめを・あきづき秋めくを云
・あきつは蜻蛉の羽を云・あきたき人をあくんのはくを云・あくが社そ
よはゆれゆくを云・あさなげ朝よけなと云よ同く・あぶしよあだ
なゆ系ゆと云こと云・あぶひと實なくぬあぶ〻〻・あぶことら實なぬ
きくと云ことと云・あぶ〻〻きことをいふ・あぶめくあぶ〻〻きふをを云・あぶまれ敵よおもはゆ〻を
い・あつこえ厚きを云・あてやかけたか・あてはかあてやかよ同
ふ・あなかま闇しきを製もく祠・あはつかあそ〻〻・あひおひ相追

よて物のたがひよ追み追祇・あひのあ車な人といふ・
ふもちよりも出ゆ系言なりあ・あひぢみ人とおな〻和よ住居るを云・あへなむ俗よ相應な〻・あま
ひこ天上の人を云・あまがつ這子のやうよ伏ヒく三業までの小兒のをてあそびと爲の玉事を
これよおほもる物を云・あまそぎ髪をさげ尼のかたちよきるを云・あやすぎうはく
く紫のちなひたゆ杉を云・あやよくそれことなこのことの加ヒそふを云・あやまひ
あやなをいふ・あえこのあやかあこのことなる・あゝをぶしもきもかへ
田を云・あいだ社愛敬あるを云・あ〻がふ爭ふを云・あ〻はひ衣服
など洗を云・あつき馴ちくを云・あはて・あはなが〻ふをいふ・ある
やう俗よ訳と云よ同・あをいろ麹塵の服を云山鳩色といふ衣と・あをざし麦

よて調したる菓子を云

五音

・あかゐ　赤酸醬ハ俗ほほ

・あかゐぢ　赤李ハ和俗ないとゝをゝ

・あかゐ　赤蕪ハ俗きと云ものなり

・あかるたへ　明妙ハ神事ゝ用る鮮明なる布を云

・あかゝさま　儵忽ハ俗靖蛉を云

・あきつかみ　明津神ハ天皇を称奉る詞ゝて今ゝ不圖と云ゝ

・あきつかみ　あきゝかゝよせゝおはゝまゝ神と云云

・あきかゝは　秋柏ハ商ふ柏葉を云

・あげつらひ　論ハ議論を云

・あさがれひ　朝餉ハ朝の供御を云

・あさゝなゝ　朝且ハあさなゝ云

・あさめゝ　朝目吉ハ朝ゝ目吉物を見る云

・あさじらき　朝閼ハ朝船の纜を云

・あさはふる　朝羽振ハ朝浪風の立を鳥の羽振ゝ譬へてゝ云

・あしなへ　跛ハ足を煩を云

・あふさわゝ　相佐和仁ハおほさふと云と同云ゝて俗ゝ一通と云云

・あまつみづ　天水ハ雨を云

・あまの　天之御巣ハ御庖厨の竈所の上の炊烟の立のぼる處の簀を云

・あまそゝ　安麻曾ハ理ハ天ゝ進み上るさまなる氣をゝふ

・あまさかる　天離ハ天ゝいまゝ遠放て見ゆ氣形を云て夷とつゞけたり

・あまかけり　天翔ハ空をかけ氣を云

・あまごもり　両隠ハ両ゝ雨隠ハ雨ゝ見ハ雨ゝかくるゝを云

・あまづゝみ　雨作ハ雨ゝ見ゝて居ゝるを云

・あめしらし　天所知ハ神上ゝまゝ夷を云

・あゝわつゝ　天降自ハあまくだゝまゝ夷を云

・あやはどり　漢織ハ漢の機織と云ゝと云

・あゝみたま　荒魂ハ御霊の徳

・あをとめ　阿礼乎止賣ハ賀茂齋内親王を云

・あをまゝて　青和幣ハ麻のまゝてを云

・あかねさす　茜刺ハ赤氣のさ夷を云

・あかゝしく　赤羅引赤氣

の引く・あをよし　青丹吉ハあをよい青土よて・あぢ
を云　余ハ呼出辭詞志い助辭ゝ
さはふ　味澤相ハ味息の多よ經わゝを云めとは、・あ
けらゝハ群なわむ社を約む社ばめとなる
さづく　朝月旦ハ朝の間の日・あまつゝふ　天傳ハ天路
ひを云命とつゞけゝ　をつゝひ行
を云日とは・あをみづゝ　青角髮ハ天吉葛よ・あづさゆ
づけうわ　梓弓ハ持の木よて造れる弓を云あづさい伊豆の山里
みなどよてハづさと云て曲てゝを云ゝ力のつよきを云
細きをい箕の緣なとよつゝ今世よ持と・あをつゞら
云い折やすき木よて弓財よハなわがゝ
防己・あをかづら　防己を云・あアそらみ　荒磯海なゝ・あぢきな
を云　魚狀ハ味の・あかゝしひと　證ハ證據・あかくちば　赤き杉葉
なきを云
色を
いふ・あづまゝと　和琴を云・あけらゝし　あかゝく・あぢゐ
らしなゝ

ばみくと云ゝ・あゝまゝきをいふ・あまそゝぎ　あ去
たゞを　をいふ・あゝまゝひと人よ　夜對
あをぐる　仰よくきを云・あはつけきあゝきを云・
云・あわてゝし　周章を云・あさきよめ　朝の掃除を云

六音

阿迦良表登賣ハ　紅顏の童女を云・あかゝをぶね　赤羅小船ハ赤丹よて塗れる舟を云・あかゝをとめ
ハ東壓ハ内侍司の被官の女・あづまわゝ　赤心を云・あづまゝ　誠
き旅松とて馬よのゝて供奉る者と・あづまをの
こ　安豆麻乎能故ハ　東国の男子を云・あひてけびと　共食者ハ食應の時の相伴人を云・あ
ひまづくわ　相麻自許利ハあまづなはゝを云・あひくちあふ　相口會ハあひ諾な

ふを云 ・あまの打ちよ 天之足夜ハ長き夜を云 ・あまのちぐわ 天乃血蚓ハ上代の人家の屋根の竈處の上の烟を出す處の名を云 ・あまのぬぼこ 天之瓊矛ハ玉を飾れる矛を云 ・あまのはぶき 天羽鞴ハ天上鍛冶の用る吹皮をいふ ・あまめさくめ 天採女ハ天のさ〳〵めだち女といふことを云 ・あまつひでか 天津日高ハ天津日の空より高くあるをいふ ・あまついはき 天津磐境ハ神を祭る場を石を築固めて構へたるをいふ ・あまつすがそ 天津菅曽ハ菅を細く割て打拂ふやうに造りたるをいふ ・あまつひつぎ 天津日継ハ天津日大神の大御業を嗣たまふを云 ・あまのひつぎ 安麻能日継ハ百姓の奉進る貢物の事なり供御の物などをいふ ・あめのいはや 天石屋ハ天上の堅固なる屋を云 ・あめのいはと 天磐戸ハ天上の堅固なる戸を云 ・あめのみかげ 天之御蔭ハ天のかげを云

・あめのはゞや 天羽羽矢ハ天の羽張矢なり ・あめのかぐや 天之加久矢ハ天の鹿兒矢なりて鹿を射る矢を云 ・あめのひらか 天平瓮ハ天ハ天上をいふ平瓮ハ今いふ瓦器なり ・あゝひとがみ 現人神ハ現身の神といふことなりて天皇を称し奉る ・あゝはふこと 顕露之事ハ現在の事業を云 ・あをふしがき 青柴垣、青葉の柴垣を云 ・あゝそぐ 正月十五日より内裏まて行ふ踏歌を云 ・あまのかるも 海士の刈藻なり ・あふさきらさ 俗にあちゝこちゝ ・あひなぶのみんも 行まいかなりといふより ・あをきの事を頼より思を云 ・あゞこゝろ 他心を云 ・

七音

・あけのそほぶね 赤乃曽保船ハ赤く赫土やて塗たる舟なり ・あさきのはらの 節ある木の柱なり ・あさでこぶしま 麻布の小衾を云提ハ布の約なり ・あ

ものなたたぎ海士の縄を たぐるを云 ・あをいたぎ黄昏を云

○い

一音

・いねいを云 寝ねいを云

二音

・いつ 稜威ハ威勢を云 ・いづ 嚴ハ齋清たるを云 ・いめ 射目ハ射部五十日ハ字 射目ハ射部にて弓射る

・いか 人を云ふ 義のごとし

三音

・いつく 伊都久ハ齋敬を云 ・いふ 息ハ休 ・いば 屯ハ集居を云

・いさわ 伊射利ハ勇魚取を略す ・いそ 勢ハまめるはたらきを云 ・いそ 伊呂兄ハ男ハ同母の兄を云 ・いさ 泥ハ男女ともに同母の兄姉を云

・いまし 汝ハなんぢ ・いろせ 伊呂兄ハ男ハ同母の兄を云女ハ同母の男兄弟を云 伊呂ハ愛み親む詞 ・いろね 伊呂ハ同母の姉

伊呂ハ男ハ同母弟を云女ハ同母妹を云 ・いろも 伊呂妹ハ男より同母の姉妹を云詞 但し男弟みづから云時ハ女 ・いろえ 伊呂兄ハ兄ハあ ・いろは 伊呂波ハ母を云ふ ・いも 兄をバ姉とも云 伊久里ハ海中の石を云 ・いもじ 蕷ハ芋の蓋を云 ・いさち 泣ハ怨泣を云 ・いづち 何所と云云 ・いなせ 諾ハ否 ・いとゐ 齋居なり精進すを云 ・いらへ 返答を云

四音

・いはしべ 忌鬼ハ神酒 ・いはくえ 伊波久殿ハ岩の崩れたる所 ・いらつめ 郎女ハいらつめ詞 ・いはむら 磐村ハ巖のむらがりたを云 ・いへづと 家苞ハ家へ土産を云 ・いへびと 家人ハ我が家内の人をいふ ・いつかア 移都我利ハ伊ハ發語都我利ハ移の延言 ・いはゝし 物よつきまゝふを云

磐走ハ川ヨ石を並へ置て
わ〻ふ飛石とゝふ物を云 ・いそはく伊蘓波久ハ勤労るを云 ・いは
どこ磐床ハ床の如く平 ・いきづき氣衝ハ嘆息 ・いさよ
かなる磐石をゝふ もろを
ふ不知代経ハゆくさきへ ・いきのを氣乃緒ハ命根を云 ・いぶか
進ま武にめらふを云
欝悒ハおぼつかなく欝く ・いぶせき欝悒ハい ・いふ
としてんのはれぬを云 ぶかしよ同
かゝいぶか ・いくばく幾許ハいか ・いさ〻めハ率尓ハかそめよ
しよ同
おな ・いやちこ灼然ハ理いち ・いなのめ稲目ハあしたの目よりてあゝ
しるきを云
ゆくとは ・いはつな石綱ハ石蘿く ・いめびと射目人ハ射部人
づゝうゝ
けるゝ目伏さして ・いたづき勤労を云 ・いさらゐ小井 ・
伏隠るとゝふを云
いきまき勢ぶるを云 ・いさかひあゝふを云 ・いむごと戒行を云

いとなしいとまなくい
そがきを云 ・いざとき寝ざときを云 ・いたはる扨
なとゝ云ハをてなし
かゝづくことなゝ ・いへのこ宮き家の子族を云

五音

・いくみだけ伊久美竹ハ葉の茂く彼此入交あへふ竹を云 ・いたやぐし
痛矢串ハ矢の身中
よとほわたふを云 ・いかゝみよ茂御世ハ盛なる御代を云 ・いちじ
ろくあゝはなるを云
灼然ハきいやかよ ・いとのきて伊等乃伎提ハいとど、ゝまおなし
・いとろぐひ伊須呂計比ハ炎をろぎの延言 ・いちはやき嚴忌ハ悪くもろるときを
云 ・いさゝらみづ潦水ハ雨水の溜れるを云 ・いつくゝき嚴ハ嚴密なるを云
いつかゝき小嚴ハ ・いへつどゝ家鳥ハ庭鳥なれとは雞とはけゝり ・いなむ
ゝろ伊奈武思呂ハ寝席よて皮とつゞけゝり ・いはくや炎播區娜輸ハ岩崩の延言よて岩

のくづれ・いめたて射目立而ハ射部立てとみとけたるを云・けだるハ獵人を立て鳥獸の跡を見ると・いぬじものてふものと云云伊須久波斯ハ伊須ハ勇なり久波斯ハ美称なり鯨とつゝけうて鯨を取を云・いさゝがはいさゝ小川を・いへのかぜ家風よて家の威光をいふ・いきだま生霊よて俗ハ云・いかめしき嚴重なるを云・いきやうなもはなき幼稚を云・いまもがおはゝまも・いとまいるの隙を入をいふ・いへとうじ家の妻室・いきゝなき寢ごきを云

六音 巳

・いくはどこ乃射場ハ弓射る・いつものはゝ伊都藻之花ハ五百津藻の花よて多く生たる藻の花をいふ・いはとかゝい石迹柏ハ石常磐よて磐のときはなるを云・いさかきぶち石垣淵ハ岩の垣の如く・いぬかひぼう犬牛ハ犬ひこ星を云・いつのちわき稜威之道別ハ稜威ハ威勢をハひ道別ハ道暇をわを行を云・いとまのひま暇のあいぶと云ことなる・いとまきこえを先を・いふかゝなくいたんやう・いまゝときは今一段いふと云・いせをのあまいせを深いせをの宮なゝいと云・いはまでくさ磐よせる草を云・いゆきはゞかり伊去波伐加利ハ伊ハ發語よて行かゝるを云・いのちよむかふ命向ハ命をかくふよおなじ・いさゝむらたけ伊佐左村竹ハ群竹を云・いなゝゝせとゝ否と諾とゝよて俗ハいやとゝをおとゝと云よおなじ

○う

一音

・う　諾ハうへなふを云

二音

・うけ　食ハ食物を云　・うかけよ　宇迦ハう　・うを　髻華ハ草木の枝まゝハ造ヒ花などを頭まゝ冠まゝさしを云後世の挿頭と云やのなゝ　・うて　宇豆ハ棄ると云　・うき　宇伎盃を云　・うつ　珍ハ高貴なるを云　・うれ　末ハ草木の枝末のすゑを云　・うべ　諾ハうべなゝふを云

三音

・うなゐ　童ハわらはべを云　・うなじ　項ハ頸の後の方を云　・うなび　海辺ハうみべを云　・うらみ　浦箕ハうらべを云　・うゝわ　浦回ハ浦のいヒ　・うめぐれる　恥を云　・うらま　浦回ハうらわよ　・うは　後夫ハ字義の如し　・うけひ　誓ハ誓祈をゝふ

・うけ　宴ハ宴樂を云　・うたき　宇多岐ハ猪などの怒れる声をゝふ　・うつて　打棄ハうちをけるを云　・うまゝ　宇麻良ハ美味をを云　・うらは　末葉ハ草木のきとを云　・うゐ　憂きことを思ひなげくを云　・うみゐ　海慰ハ海のことく　・うてな　俗けしかゝめを云　・うゝし　埋れなて陰案よくらとを云　・うゝし　宇須良姆ハ落き氷を云

四音

・うみべ　海濱ハ海のきしを云　・うゝひ　宇須良姆ハ落き氷を云　・うはなわ　後妻ハ字義の如し　・うにかゝ　沫雨ハ雨のふる時の上よりの沫を云　・うて　打橋ハ仮かゝなきを云　・うまびと　宇多我多ハ君子ハ貴人を云　・うちは　打多我多ハ仮かゝなきを云　・うたゝき　顕見ハあらはよ　・うなだれ　但初ようちわゝ搖をゝふ　・うちどるきを云　項を垂るを云　・うきゆひ　宇伎由比ハ盞結よて盞をさ　・うづな

ひ宇豆奈比ハ納受なるをいふ・うれたまぞむぞと云より宇祝年曽ハいか・うゝがゝ宇良加志ハ人の心をなぐさめよろこばしむるを云・うゝふびひしきを云浦不樂ハんさ・らふれひわるを云宇良夫礼ハうれ・うゝなけ裏歎ハたよ・うつせなぐくを云・みの空蟬ハ人の現在の身を云・うながを催駅ハをよほし令るをいふ車をうながしと云ハ車を進ろこと・うまはる蕃息ハ物の殖るを云・うまれてき慨然ハうれひなぐくをいふ・うをはゝき羅ハうを結を云・うぶまれ本居ハまれ・うはがひ袿ハ服の上ま・うつ打妙ハひゝへのことく打る里を云・うつゆふ虚林綿ハ内の虚なる歪と云ことなり・うまさけ味酒ハうまき酒を云云と・うまつけ打ハ醸の略語ゝ・うまわ味凝ハ美織まて綾とつゝけるも・うつなゝ定ハ俗より百遠なくと云云ゝ・うゝ

社宇良夫礼ハうれひなぐくをいふ・うゝびれうゝぶれまなゝ・うみづら海の辺を云・うけひゝ俗より承知と云より同・うけばわ存分なるを云・うちつけさあゝて直ちと云云ゝ・うゝろでゝうゝろを云・うちまき散米を云

五音

・うさゝづる宇佐由豆留ハ掛替より設置弓結を云・うちつくま幾内古代名墾南ハ兄山西ハ赤石北ハ狭々波合坂山ようゝ内を云後世ハ五畿内國をいふ・うゝをなく裏毛無ハ別心なきを云・うゝはふ浦妙ハうゝハんくはゝ・うなかぶし宇那加夫斯ハ項ハほゝりまて孫美の詞・うなを垂頽ろをいふ・うながせる宇那賀世流ハ項より嬰るをいふ・うはへなき宇波撃無ハ俗よあいそうのなきと云よおなゝ・うがねひ宇加子良比ハ・うゝ

獸鳥などを取んと窺ひねらふを云・うゝ

がしき　宇武何志伎ハめで
うつくしむを云　絹
じものとなり　馬自物ハ馬てふと
のとなり　・うまうめ　馬下乃ハ味物
うちわたし　打渡ハ詞ちハ廣く遠きを云
花貝を云　・うはむろ　俗ハ上敷ござ
と云ふなり　・うちはぶ　うちはぶきと云ふ
月　・うたてあり　俗ハ厭かしぬと云ふ　・うたゝあるうたてあるハ同
うとましきげと云ふ　俗ハうとましと云ふ

六音圦

・うつゝろ　現心ハ平生躰のこを云　・うつしゝろ　物ハうつ
しかはりを云　・うしろやすき　素づのひ素ぎ　・うしろめた
きなくなく業　ことなきを云
ぎらゝを云　・うたていたき　俗ハ陋業をぎ
たるを云　・うちたて

ぬがみ　女の髪の垂たるを云　・うみのこのいやつぎ　宇美乃古能伊也都
藝都岐ハ子孫代々を云

○え

二音

・えゝ　縁を云ふ　・えゝ　えもいはれぬと云ふ

三音

・えみし　蝦夷ハえぞ人を云　・えつき　課役ハ運上物諸役ホを云　・えひめ
長女ハ姉を云

四音圦

・えさゝぬ　さわがしきと云ふ　・えなゝぬ　一通りならぬを云　・え
ないさぞ　絹ハいひのべかしきを云

○わ

二音

・おも　母ハはを云　・おそ　於曽ハ鈍なるを云　・おほ　於保ハ凡なるを云　・おさ　徐ハ人を賤しをも云　・おもめ　詈て云詞ゝ

三音

・おかみ　龍ハ龍神を云　・おむな　嫗ハ老女を云　・おみれ　嫗よ　・おして　印ハ印判を云　・おもの　食ハ食物を云　・おゝかはて　奥香ハ奥の又御膳をも云　・おらび　叫哭ハなき同なり　・おや　於夜自ハ　・おやゝ　毒害ハ物をそこなふを云　・おもし　淤須比ハ後世の婦人の被衣のごとく頭をおほひ補まぞよりかはゝ　ふるて衣の上をおほひ補まぞ垂る服とゝ　・おほを　意冨袁ハ大丘なり　・おちぢ　淤知受ハ漏さと云ふ　・おど　殿ハ殿舎を云　・おとゝ　大臣ハ女をあがめて云　・おきひとゝ　・おまし　御座ハ御座のことも　・おぼえひなし　世の人のおもをを云　・おぼえ　似たるをも云　・

おそ　強ハ心の強悍くおそろしけなるを云　・おろ　御前より下なる物をいふ　・おぞ　世のおそしなどいふ　・おさ　物のおさくしづめとなるを云　・おちゐ　落ぶれて居るを云

四音

・おほとの　大殿ハ大なる殿を云又大臣の尊称をも云　・おほみけ　大御食の御膳をいふ　・おほよ　大贄ハ朝廷の御膳物を云　・おひそや　於比曽箭ハ負征箭ゝ　・おくつき　奥津城ハ墓のことも　・おほまく　大前ハ神の清祓天皇の御祓を云　・おもてり　佞ハ面を和げてひへつらふを云　・おこづて　誘ハあざむきいざなふを云　・おほろ　妖偽ハまがゝよづれしき言を云　・おほろの　凡可ハおほよそ日　・おむかし　欣感ハあふきなむを云　・おくまく　奥真経ハふかく思ふを云　・おくまも　奥儲ハふかく

へよ ・おもづき 面就ハ衣なとの其人よ似合なるを云 ・おもしる 面知ハおもてうるはしくを云 ・おもがつ 於毛可多ハ面形なるを云 ・おもみ 面差ハ面耻かしきを云 ・おもなし 面無ハ人よ對して面強なるを云 ・おもがつ 面強なるを云 ・おしね 押祢利ハ力なと握ひねるを云 ・おもづき 重きを云 ・おもづる 於毛自岐ハ重籠頭ハ馬のおをかひを云 ・おきのる 賜ハ價をやらで物を借るを云 ・おもめか めいやしを云 ・おほえぬ おもひかけぬを云 ・おみのこ 淑美能古ハ臣子なとを云 ・おとめ 臣といふこと ・おとをけ 小兒の長しくなるを云 ・おくの 奥手ハ左手を云 ・おくまあき 奥ふかきを云 ・おもあき 重々しきを云 ・おほとの 人の大やうなるを云 ・おほのかう 大やうなるを云 ・おほどき 大やうなるを云

・おほどけ 大やうなるを云 ・おひなし 成長もなるを云 ・おひなあ 人の成長なるを云 ・おひさき 成長もさきを云 ・おほぐれ みぐれひろなるを云 ・おほぞら 俗よ一通の云よ日 ・おいらか おいらかと云よ近し ・おそまき おそろしげなるを云 ・おずまり おそまりよ日 ・おずまり おずまりなるを云 ・おぼめく 不審よおもふを云 ・おぼ 溺るをおよて水よ沈んめを云 ・おちがみ 狼狽るを云 ・おちがみ 振けづる時よぬけらる髪を云 ・おとぎ 青よきを云 ・おとみい 音ぎよ日 ・おとをし 恵者のことを云 ・おとやら 顔のあらさまを云 ・おしてらし 合を云 ・おやかた 親ぎまれる人を云 ・おぼ おほらかなきを云 ・おこめ をかしぎなるさまを云 ・おなご 思恵もなきさまを云

五音

・おくかなくはてなきを云　奥香無バ奥の

・おもほぐち　怠ハ怒ル色の貌

よあらは　ゆゝしを云

・おほゝゝく　樹閉悒ハおほらのなくん晴やこのなゝぬを云

・おゝは

ゆゝ　意志波留志ハ押晴しなり

・おくたかき　臆病の基

・おほてな　身分不相應を云

・おゝく、みおゝ包を云

・おほいどの　大臣の官称

・おのが　おのがよゝく　各の身の上と云ことをもて離別して

・おのが　自分自分の世となるなとをいふ

ゝい　自分と云ことなり

・おてがま　俗ハ馬鹿らしきと云云

・おもてぶ　面目なきと云ハ

・おはさらぼ　おさらまと云ハ

・おもよくき　俗ハ悪らしきと云ハ

・おいのなみ　老て皺のよりを云

・おほいぎみ　姑おすめを云

・おちあぶれ　落ぶれたる云

・おひもがひ　追ぼくをいふ

六音

・おほをそどち　於保手曽杼里ハ大偽鳥と云ことゝ

・おまゝどこれ　御坐所ハ字義のごとく

・おきつみとし　奥津御年ハ稲を云

・おもひちなへ　念之奈要ハおもひ志ほゝゝを云

・おもゝ　面高夫駄ハ方悔らきと云てとなり

・おほ　おぼゝきおぼろゝゝおぼろゝなきを云

・おいもの　老ぼけを云ハ

・おいもの　老ぼけを云

・おもたぐしき　面目なるを云

・おもひのどめ　思ひ留ることを云

・おもいられ　切ハ思ふを云

・おほとなぶ　大殿池ハて燈火を云

・おもゝのほ　俗ハ氣の高いとゝいふ

・おもゝたゝぐ　物のかぎとも思はぬをいふ

・おほよをびと　只一通の人を云

・おほをぼる　思のかなるをいふ

七音 已

• おほくてつこの 大御手物ハ天皇の清 • おほまつつきみ 大臣ハ字義の如し • おほとまちきみ 侍臣ハ字義の如し • おつる ことなく 無遺忘ハ忘れることなきを云 • おほとめてゑわ 清寝床を云 • おそらふ 俗ハ見あたらと云ふ • おそしあぶさぶ 苦ぶれさせぬを云 • おそひぐまなし 思やりなきを云 • おどろし かなしくておどろく • おほまめみこと 太上天皇ハ字義の如し • おほいものまををつかさ 大納言ハ字義の如し

○ か

一音

• か 鹿ハ古のを云

二音

• かひ 峡ハ山と山との間を云 • かぢ 楫ハ舟をつくる杙を云 • かば 炫ハかばやくを云 • かび 殖るを云 • かみ 釀ハ酒を造るを云 • かど 門ハ智恵を云 • かぶ 詩ハことと云ふ

三音

• かなぎ 金木ハ小木の枝を云ふ • かひこ 蠶ハこがひを云ふ • かきば 片葉ハかたはを云 • かきと 堅石ハ常住なることなきを云 • かつま 勝間ハ竹を編たる籠を云ふ • かたまつ 堅間ハ竹を繁く云 • かまめ 加萬目ハ鷗なり • かみ 髮ハ小き籠を云 • かまど 竈ハ土を云 • かまめ 萬目ハ • かなどめ 金門ハ門のことを云 • かふ 可布ハ破布 • かせひ 挂ハ籠の糸を引うけて繰も云 • かせぎ 鹿ハ古のを云 • かわら 伽和羅ハ鎧を云 • かばね 姓ハ源平藤橘の類の氏を云 朝臣宿祢の類の尸を云

・かばね　屍ハ死體を云

・かぶら　鏑ハ鳴鏑を云　鏃ハ矢尖のこと　掠ハかすを云

・かぶら　加夫斯ハ物の垂傾を云

・かぶくし　傾ハかぶよし

・かまけ　感ハ感心を云

・かたね　可多祢ハ俗ヨ云　可利豆ハ餉直ヨ云　彩上ヨ云　旅ヨテ食物の代ヨ作るを云

・かくふ　搗ハ團をハ云

・かこふ　かくふヨ云

・かぶみ　新ハ新儀を云

・かくわ　縑ハ細き糸を堅織ニ結ふを云

・かづ　呪詛ハ祈ねがふを云

・かぢめいぎ

・かこち　満足ならぬを云

・かこち　記ハ歎くを云

・かごと　訶ハ責ひ又少しの責を云

・かごとい　彼の奴と云こと云

・かこち　いひぐさと云云ふ

・かけぢ　懸崖の道を云

・かき　辛苦を云

・かこを　奉

四音

・かこゆみ　鹿兒弓ハ鹿兒を射弓と云ことと

・かしはで　膳夫ハ食物のことを執行人を云

・かたうた　片歌ハ五七七の句の歌なり

・かむなぎ　神巫ハ神ヨ仕へまつる處女を云

・かむなぎ　神巫ハ神ヨ仕へまつる男女を云

・かぎぬ　肩ヨのみ短き衣を云

・かせづえ　鹿杖ハ横首杖を云

・かぐなへ　迦賀那倍ハ日ヨ並ヨテ日數を重ることを云

・かぞけき　可蘓氣伎ハ歎なるを云

・かむさび　神佐備ハ神の御心の進ることを云　又神ふるびたるを云

・かげと　影面ハ山陽を云

・かげとまけ　方設ハその時折ヨ向をいふ

・かまち　待ハ片待ハ下待ヨ用

・かわば　刈婆加ハ刈の場所を云

・かよふ　加我欲布ハかがやくを云

・かき　片數ハ衣ヨまれ神ヨまを云　社片方をあとのよもを云

・かぐらし　誂ハよびさそふを云

・かくはし　香細ハ香の妙なるを云

らま 加散良末い 切てなり

・かゝのみ 可可呑い俗よりがふ 呑と云る日

・かゝく 苟我い仮木なと苟

ひかる 跡の様をいふ

・かゝし屋 堅塩い かゝしま 汁る塩を云

・かゝあ

み游沐い川うづ

あはるをいふ

・かゝばゝ 綺い綦の目のやうな る形のおて物を云

・かぎ

石ひて 加藍漏肥い火かげのかけろふを云

夫ま 鶴て日影をもる名遊をもいふ

・かげろふ かきろひ

よお

なり

・かげろふ 蜻蛉い俗よとん

ほうと云虫なり

・かなまわ 銚い金碗よて水酒を盛

器

・かきつめ かきあつめ

と云る日

・かずまへ 数とを

る云

・かへさふ

かつをと云る日詞よ

て辞退もるをいふ

・かどめき 一かどあ

る云

・かゝやのご

うる

・かゝり 座を去ゆ

日

・かゝる

云い帝の

曲名を云

・かゝもち 俗よるがゝ

と云る日

・かゝそば かゝはと

云る日

・かはるかはる いさきよりさは

やのなるを云

・かたおひ 幼きを云

・かぐなわ

唐菓子よて形い緒を結

べる如くなる物を云

・かいなで 未熟又一通

など云云

・かいま

ふ 物のもきまよ

ひとるをいふ

・かいねり 赤き色の

衣を云

・かゝみよ 玉よ

なり

・かきけち 書消てよて跡かきけちな

といふい跡のもち社ぎちを云

・かびわぎ うちひ

ろぐ社

るを

云

・かねごと 兼て約束

もるを云

・かゝもの 人形を云をおもて

その人よ似せる人

なをを

いふ

・かはゝえ 嘯よて笛の真

似もるをいふ

・かゝ 干青

を云

・かべ

もゝ 壁よりて張る幕

のやうなる物を云

・かいもと 垣下のことうて食事

相伴も

の時人数の外の人の

るを云

・かへなり 佛名の日摂津の栢梨の

庄よりも上る酒をいふ

・かなくるき

くを云

五音

• かむほぎき 神祝ハ神ヨ祷る詞を云 • かむづまり 神留ハ神の高天原ヨ留まるを云 • かづかけづ 加都良賀氣ハ山カ蝶の日覆を云 • かはひごい 撫鷹ハ二案を云 • かたかへり 撫鷹ハ二案を云 • かけちかけ 懸祝ハかけ絃を云 • かもかくも 左毛右毛ハ云ヨ日 • かみなりふ 神習ハ神の御所行を習云 • かづけもの 爵禄ハたまものを云 • かへりもの 僧還俗者ハ僧俗ヨリたるを云 • かもじもの 鴨自物ハ鴨ヨリたるを云 • かこじもの 鹿兒自物ハ鹿兒ヨリたるハ子一ツうむ故ヨリ云 • かへしもの 神樂催馬樂の呂の調子を律ヨ易る時ヨリ云 • かへりこ 呂声の律声ヨリ云 • かはを 公卿を云 • かはめ 傍ヨリ云 • かはめる 化粧を云 • かほづくわる 化粧を云 • かきを 文などを書ハ書ハ書を云 • かひ 貝ヨリ云 • かひつもの 貝物ヨリて貝を云 • かづらひ 其事ヨリ云 • かづかし 恥ヨリ云ヨ日 • かづかし 俗ヨリ云 • かへりて 祭相撲賭弓など事ハ帰ヨリて懐ヨリ食を設るを云

六音上已

• かくのこのみ 香菓ハ橘を云 • かもきかくもき 彼往此去ハ なたこなたへゆくを云 • かよわかくよう 彼依此依ハかなたへよわこなたへ寄を云 • かけのよろしき 懸乃宜ハ言ヨリかけて云 • かみのみさの 懸乃宜ハ言ヨリかけて云 • かみよわいた 懸の嶮しき板を云 • かみのみさの 懸乃宜ハ言ヨリかけて云 • かはれどき 夜あけがたのぐきを云 • かよくるえぐ かなさこなさ

よわあきちがひかさ
なかるえどをいふ
のごとく
• かごとばのあ おしばうあ
と云ふ
• かさ
真似のやう
• かさはなき
亜ぶらの
なきを云
• かさは
云ふ
らいたく氣の毒なお
ふを云
• かどくしきまて一ト
角そしきまて一ト
ふしあるをいふ
• か
つくあるく
賭弓はてい勝方の里
亭まて餐煮あるを云
• かくれのかた
物陰の
所を云

○き

一音
• き城ハ城
ろを云
• き酒ハさ
けを云
• きすハ一寸二寸
なとのすを云

二音
• きそ伎曽ハ昨
夜をいふ
• きへ岐閑ハ来経
いきへゆく
まて月
なとを云
• きて分ハ
ハ刻まて寸分の分をも云
• きね木根ハ
現巫ハ神
木を云
• きぬ
なきを云

三音
• きく伎許志ハ聞こと
又人の言を
きをも云
• きら霧合ハ霧
霧合ハ霧
よくり

を云
• きくめ支多米ハ罰
もるを云
• きづな
• きたひ鰭ハ犬を
引索を云
• きたひ腊ハ魚の
九干
を云
• きくし
塩を
ふ
• きびた雉ハ幼
少を云
• きすく
あちの
まくを云
つくろひ
なきを云
• きんち汝と云
ふ
四音
• きわかけ板まて造れ
ふ垣をいふ
• きもきえ俗ふ肝のつぶ
ろくとも云ふ
• きくあふ
ものを上おかる
こくまを云
• きんだち君達ハ摂家清花
の子息をいふ
五音上已
• きくをを伎乎須ハき
こしめをと云
• きよまはち清麻
波利
ハ潔齋
を云
• きくく
端正ハ俗ふ立
派と云
• きもわう
肝雄ハん
の若氣なを云
• きくのかと俗ふ奥方
と云ふ
• きはなく隆限なき
をいふ
• きはで
• きくきはくしき
をいふ
• きくさく景迹まて別所ふ
もくれかるを云
• きはて

なるを云　一段別なるを云

○く

二音

•くる　久留ハ戸の樞を云　•くき　岫ハ巖崖を云　•くゝ　構ハ割たる枝を云　•くえ　敵ハ岩などの隈ハ物かげを云　•くま　久岐ハ漏を云　•くま　隈ハ岩などの隈落なる所を云

三音

•くはこ　桑子ハ蚕を云　•くみど　久美度ハ籠所と云ことゝ　•くかね　金子ハ鈴や玉などを著て釗ハ鈴を云　•くしろ　釗ハ鈴や玉などを著て纏て餅とする物を云　•くちめ　口女ハ鰤魚を云　•くろき　黒木ハ皮付の枝木を云　•くゝつ　裏ハ藁にて籠のやうに編て物を入るもの云　•くゝつ　偶儡子ハ裏に木くなど入て持て駅に出て旅人の身をなして舞妓の類の女をつゝ　•くが　玖訶ハ尾ハ湯起諸の湯わかす釜を云　•くひぜ　株ハ木の株をかぶを云　•くしび　霊異ハ奇妙なるを云　•くまわ　分ハ配分を云　•くぼさ　利ハ利潤を云　•くす　奇ハ奇妙を云　•くすくまみたるを云　•くねる　俗よもねるを云　•くだち　降ハくだるを云　•くぬが　陸ハくぼてを云　•くぼて　葉挽ハ柏の葉に竹針をさして椀の形に造り食物を盛をつゝ　•くわざ　冠者にて元服をつゝ　•くゝだち　蔓ハ蔓青の茎を云　•くるべき　反轉ハ糸をくる器を云　•くれぐれ　久礼久礼ハ餘念なきを云　•くつぼち　久都保里ハ裏頽を云　•くさとる　草取ハ鳥の木草をまちあつまるを云　•くちあく　口會ハ其言を諾をつゝ　•くらがみ　座長ハ上座を云　•くらゐ　座下ハ下座をつゝ　•くかたち　探湯ハ湯起請を云　•くぎぬき　釘貫ハ垣の名なり　•くちのは　言ぐさと云ふ　•くぜづき　ひとくぜあるを云　•

くちゝ 俗ハ口入ルと云ふ ・くすあこ 正月の屠蘇をまゐ 狆 ・くちのこ 馬牛の口籠を云 ・くすり 正月の屠蘇をまゐる童女を云

五音

・くちづゝみ 口鼓を云 ・くゝみたま 奇魂ハ奇妙なる徳用あら魂を云 ・くすはき 久須婆之伎 ・くすはゝ 薬獵ハ四五月頃の獵を云 ・くゝもゝき 久奈多夫礼ハと同く奇なるを云 ・くなゝぶれ 頑狂なるを云 ・くれはどり 呉服ハ呉の機織人と云 ・くしろつく 釧著ハ釧ハ鈴玉などを結綾の類を多く緒に貫きゝをへひ著ハ臂に巻を云 ・くさづゝみ 草管見ハ草中の毒虫を云 ・くれまどゝん 蠱ハかくるゝを云 ・くゝねゝ 也なほなるを云 ・くぬぎのみち 北陸道ハ字義の如し ・くまひやろぎ 熊神籬ハ神佛の像をおく厨子を云 ・くしのたち 頭椎之太刀ハ劔の頭の槌の形ちゝらを云 ・くらべくるゝきざぬを云 ・くゝのみことをもち 國司ハ字義の如し ・くらべくるゝきざぬを云

六音 比

○け

一音

・け 食ハくひものを云 ・け 笥ハ物を入る器を云 ・け 消かきを云 ・け 異ハことなる云 ・け 異ハ朝に異なると云 ・け 氣ハ日の氣ほけなると云 ・け 氣ハ物の氣を云 ・け 露ハつゆけなる雨と云 ・け 日をあるけ申たまふなると云 ・げら 社ゝげらほゝげらゝなると云 ・げ 袴ハその袴子を云

二音

・けち 消ハけを云 ・けや 計夜ハけやけきを云 ・けで 餼子ハ飯を盛る笥を云

・ける 著ハき ることを云 ・けぶ 焼たき ることを云

三音

・けもの 畜ハ家ゝ飼おく六畜の類を云 ・けしき 異ハこと なることを云 ・けも る 祁勢流ハ著 もることを云 ・けみ 閲ハあらた めることを云 ・けさ 有様様子なと云ことを

・けぢめ 物のわゝ ちめを云 ・けん 消ぬ ・けい 家司ハ其家 をあづかり司ど 者を云 ・けそ 花足の 机を云

四音

・けだもの 獣ハ山野 の獣を云 ・けなげ 氣那賀久ハ 日なげく ・けな 氣並ハ日数 重ることを云 ・けやけき 異ハきはゝ しきを云 ・けきよ 氣清ハ潔 白を云 ・けらく 人氣うときを云又もど なきさまなることを云 ・けど 物よ ひをらば れたることを云 ・けあげ 俗よ素あげ ることを云 ・けい 俗ハけざ やう

よくなきを云 ・けおされ 様子の物をおさ れおとりたるを云 ・けく 俗ハきを変なく と云 ・けざやか くちなきを云 ・けとほく 人素とほきを云又 遠きなることを云

五音上

・けしきあし 拙嫌のわ るきを云 ・けしきとる 拙嫌をと ることを云 ・けしきばみはく 素ふよあ ゝ を云 ・けしきだつ 素ふよみ ゆることを云 ・けしき なき 様子な きを云 ・けしからぬ 異様な ることを云 ・けのあゝもの 毛麁物 ハ毛の あゝ き獣を云 ・けのよこもの 毛素物ハ毛のやは らかなる獣を云 ・けきば かり 様子ばかり と云ことを ・けおそ 様子おそろ しきを云 ・けきた まはる 御内を 伺を云 ・けしうい あゝ ぬ わろくハあ らぬと云を云

○こ

一音

• こ籠(コ)か • こ來(コ)ハきゝ社こを云

二音

• こゞ許(コヽ)自(ジ)ハ木を拔(ヌ)くを云 • こよ許(コヨ)欲(ヨク)ハこゝよ云と云 • こゆ自(ユ)此(コヽ)と云よ同

• こむ古牟(コム)ハ子うむを云 • こち此方(コチカタ)と云

三音

• こゆ臥(コユ)ハふ臥を云 • こゝら許(コヽ)々良(ラ)ハ物の數の多を云 詞よて甚しきを云うゝ月ハ

• こゝば許(コヽ)々婆(バ)ハこゝよ同 • こゝ幾許(コヽ)ハこゝよ同 • こきだ許紀陀(コキダ)ハこゝよ同

• こゝら許(コヽ)々良(ラ)ハ物の數の多を云 詞よて甚しきを云うゝ月ハ

• こゝば許(コヽ)々婆(バ)ハこゝよ同 • こゝ幾許(コヽ)ハこゝよ同 • こきだ許紀陀(コキダ)ハこゝよ同

• こなみ古那美(コナミ)ハ前妻を云 • こぬ紀木末(キノスヱ)ハ捐(ヌ)よ同 • こむ樹村(コムラ)ハ木のむらがゝを云

• こづみ許都美(コツミ)ハ水よるを云 • こきし古伎礼(コキレ)ハこきし入を約ゆる云

• こゝ許(コヽ)々良(ラ)ハ物の數の多を云 詞よて甚しきを云うゝ月ハ

• こゝば許(コヽ)々婆(バ)ハこゝよ同 • こゝ幾許(コヽ)ハこゝよ同 • こきだ許紀陀(コキダ)ハこゝよ同

• こゝら許(コヽ)々良(ラ)ハ物の數の多を云 詞よて甚しきを云うゝ月ハ

• こゝば許(コヽ)々婆(バ)ハこゝよ同 • こゝ幾許(コヽ)ハこゝよ同 • こきだ許紀陀(コキダ)ハこゝよ同

• こと特(コトヒ)ハ牡牛を云 • ころび嘖(コロビ)ハせめを云 • こぶり擂(コブリ)ハ擂の端を云

• こと都(コトツ)領ハそゝ群を引ゝる者を云 • こひ國王ハ百濟王を云 又それを準て外國の王ゝを云 • こんよ來世(コンヨ)を云 • こゝみ此(コヽ)なゝ • こと言出(コト)よて云ひ • こまげ區々(マヲマヲ)よ分ゝを云

四音

• こひのみ己(コヒ)祷(ノミ)ハこゝを云 • こゝば許(コヽ)々婆(バ)ハ物の數おほきを云 詞よて甚しきを云 • こきば己(コキ)伎婆(バ)久ハこゝよ同 • こきだく己(コキ)伎太(ダ)久ハこゝよ同 • こゝだく幾許(コヽ)ハこゝよ同 • ころぶを自伏(コロブス)ハおのれか ゝふを云

• こちごち許知碁知(コチゴチ)ハ彼方此方を云 • このゝし木晩(コノヽシ)ハ木かげの暗きを云 • こぐき凝敷(コヽシキ)ハこゝらを云

• こもぬ隱沼(コモリヌ)ハ物ゝこもれる沼を云 • こぎたみ撈回(ヲタミ)ハこきめぐゝを云 • こほき古保志(コホシ)ハこしきを云 • こびふし及側(フシ)ハ伏ふを云 • ことあげ言擧(コトアヲ)ハ其事のさまを云 • こむかひ己向(コムカヒ)ハ此

方よりむかふを云　・こゝろばへ所嘖ハせめい　・ことよせ言縁ハいひよせを云　・ことわづ詐毋理豆ハ物のかぶとゝろの里を云　・こゝわく隠國ハこを山間ふて山げよ隠れる水を云　・こきだ詐貴太斯ハてきだくと同云ろて数の多きことを云　・こちたき言痛ハことゞきをいふ　・ことわざ諺ハ神の人よ懸ひて言もをおよて何とな世間よいひなゝはもをゝを云　・こゝろき塔ハ佛の堂塔を云忌詞なり　・こらへ喩慰・こをちなく無骨なるを云　・こゝと此所と云よおなり　・ことあひ俗よ仕合と云ふち

か　・こぼめく物の音のごぼと鳴を云　・ことそぎ省略をるを云　・こゝろば冠様襟衣襟などの餝よ賢ホ又ハ花の枝などを金玉ろて造ひてさゝを云　・ことぐさ言種・ことづけ其事よ寄託ろを云　・ことよせ其物よ寄託をいふ

・ことさめ真さめと云ふ日　・ことつき至極せるを云　・こまぐゝ一區ゝを云

よか腰差ハ禄物を云　・こゝぞ帯のを絡を云　・ことさゝ俗よ然と云ふ日

五音

・ことよさゝ事依ハ事をおふせをゝを云　・こゝろわこの此也是ハ此が彼と云云　・こひまろび展轉ハ伏まろぶをいふ　・ことなさむ事将成ハことあらげよいふを云　・こゝろぐゝ情具久ハおぼつらなきを云　・こゝろうし特牛ハこひよ同

・こゝわつま隠妻ハ夫を云　・こまつるぎ狛劔ハ高麗の劔を云柄の頭よ環あわ故よわとはゝけゝ　・こゝまくゝ蔦枕ハ蒋を枕とをを云敵ハとはけゝ　・こゝとまくゝ蔦畳ハ蔦を編て畳とをを云幾重も重ねり故よへとはゝゝ　・ことさゝく言佐敬久ハ言語のさゝかなぬを云韓よ故つけゝ　・こゝわづらひ煩ハ敖よて嘆ばらひをを

を云 ・こゝろばみ ふばさを云 ・こゝろ〳〵 その内ふを云 ・こゝろ者を云
こゝろしめ ふふかく ・ことさゝめ ことさゝめ ・こと
よがる 詞をかぞわとよき ・ことたゞひ 事の相違 ・こと
さまよ云をいふ もる を云
もれき 無雜なるを ・こちゝ 毎骨 ・こめかしき 大やうな
ほめて云 る を云
なる ・こゝゆうめ おそふやうよ ・こまがへる 芝がへ
を云 出来ぬを云 る を云 ・
ことなほう その事のな ・こゝちなく 思案な ・こゝろだ
ほる を云 きを云
つおそむた
つを云

六音上巳

・このゝたやみ 詩能久礼麗い ・こゝろゝやわ 詩夜
流詩夜理い伏 木下曜を云
る伏 ・こゝろよの 情ホ乗いふの内
ほなる よおそふを云

なぐさ 事之名種い 事の慰を云 ・こゝろだゝひ 心太良比いふよ 満足なをいふ ・こ
こゝろぐる ふのいた むをいふ ・こゝろなゝひ ふよ刻なゝひ なる癖を云 ・こ
こゝろのおよ ふの内よりはつう くおそろ〳〵号ふを云 ・こゝろのなゝ ふのおそ
ひなを云 ・こゝゝちせぞ 物のかぞと ・こゝろおきき ふのおと
なきを云 ・こゝろがまく 心支度を云 ・こゝろおちゐ 心の安堵もるを云
・こゝろおとも おそひしよう おそれるを云 ・こゝろたゞひ 氣遠と云よ日
・こゝろもえで 其炎を解せ さるをいふ ・こゝろおゝひ 心配なる ・こゝ
ろをとる 撥嬢をと るを云 ・こゝろまうけ ふ支度を云 ・こゝろおき
てを云 分別を云 ・こゝろおゝし 智恵なきを云 ・こゝろぢきれき 仮よ好ぬと云

ろ

○さ

一音

・さ 桜ハセば きを云 ・さ 箭ハ矢 ・さ 然と云 をいふ

二音

・さが 祥ハ前表 のことを ・さで 纐ハ箕の形の如 くなる纐を云 ・さが 性ハ生質 のことを然あるべきさまをいふ ・さわ 清ハ清潔なるを云 ・さね 左祢ハさらよと云より転し ・さね 沙根ハねぶふ 凋し ・さね 使さねなどのさねハその主たる者をいふ ・さび 佐備ハ進み進みてをさまりしげなるをいふ ・さひ 佐比ハ力の名佐比ハ物を截断 貌を云 ・さを 青ざめたるを云 ・さえ キ兄を云 ・さい 然ハと云より同 ・さば 然らばと云より同 ・さね 俗よ社といふよりおなし ・さや

三音

・さよは 沙庭ハ清場 を云 ・さつや 神を降し奉る場 ・さつを 得物矢ハ鳥獣を射る矢を云 ・さつを 薩雄ハ猟 ・さくめ 探女ハ俗よ云 ・さなぎ 鐸ハ鈴のことなり ・さやう 塞ハさはふと云より同 ・さき 狭々寸ハそいめきを云 ・さわく ・さやぎ 佐夜藝ハ騒きを云 ・さやぐ 佐夜具ハ清涼を云 ・さもひ 佐須比ハ誘なり ・さくみ 左久見ハ凸凹の所をふみゆくをいふ ・さき 幸ハ恙なきを云 ・さわの 清ハきよくさにかなるを云 ・さめ 潔ハ清むふをいふ ・さむき 清む ・さびき 俗よ云 ・さびき 假床ハさびきなり ・さかき 賢木ハ榊 栄樹なり ・さは 翳ハ囲屏の形よ造てさかぎ物を云 ・さく 教覺ハかねておしへ教るをいふ ・さばれ 佐ハ社と云云 ・さいで 緒の切を云 ・さきく 弁舌を云

四音

• さゝがみ 沙々那美ハ近江の地名ゝ • さゝなみ 左佐浪ハ小波を云 • さきくさ 三枝ハ百合を云 • さゝもぐ 拆鈴ハ鈴の口ハ裂た • さゝろものゝ 佐豆人ハ猟人を云 • さつしと 佐都由美ハ鳥獣を射とる弓を云 • さかばえ 佐加波延ハ栄ゝ • さまねく 佐麻祢之ハ物の多く広きを云 • さまよひ 佐麻欲比ハなゞき如 • さがら 情進ハ賢だてもろをいふ • さまよひ 佐丹塗ハ佐ハ發語丹塗 • さわく 佐夜々々ハ物音のさわくをいひ又清けきを云 • さゝ 狭藍左謂ハ物音のさわがしさく • さゝいみ 左具久美ハ狭渡ハさいはひ幸福をなゝみを云 • さきはく 佐夜問ハ佐ハ發語 • さゝなみ 刺並ハさゝなみふを云 • さよとく 佐夜問ハ佐ハ發語よて夜訪へと云こと

と云 • さゝもぎ 左太過ハ人のよはひの盛りをを云 • さがなき 不良ハ俗ゝ毎性なと云 • さはめく 訕嘩ハさわぎあゞらいを云 • さかつて 造酒児ハ大嘗會の抜穂のこと齋酒波ハ大嘗會の時御飯米を造酒児の次ゝ春まゝ新嘗會の白黒酒の事なとゝ仕る女を云 • さかなゝみ 佐瑳餓泥ハ蜘蛛を云 • さゝがゝ 辟竹ハ割た竹を云 • さゝけ 刺竹ハ立竹を云 • さかとり 坂鳥ハ山のたわみの坂路を飛こゆる鳥をいふ • さゝを 櫻麻ハさゝくの里ようわ出る麻をいふ • さひづる 佐比豆留ハ囀ゝ • さゝもみ 指進ハ墨斗の墨を云墨斗ゝハ車ある故まくるとはゞ云 • さゝあひ 物の彼是と云 • さはる 佐波ハ障ゝ • さゝわき 佐ゝ和ハ定かと云 • さゝぶく 佐ゝ和ハ定かと云 • さながゝ 其俗と云 • さいなむ 俗ゝ叱ると云 • さゝやの

ふき
を云 ・さゝくみ 二人してさゝむうふを云くむとゝ ・さ
詞の縁よてゑ泪なとまかせてゝ
るやう 俗よ訳と ・さかしく かしくんは 俗よ
云よ日 やきと云よ日 ・さるかゝ
そのむき ・さそあるた様よそわ
と云よ日 ・さまよく その有様の よきを云 ・さそあるた様よそわ
ると云ゝゝ
・さはやの 常とな
きを云 ・さばやの さはや
うよ日 ・さば〳〵 さはや
うよ日 ・
さくゞと 物を塀
覆を云 ・さゝぼひ 痩たるさ
ひまを云 ・さゝみ 人なゞの多く
こみあひた
るを云 ・さておき 其俗お
くを云 ・さればみ 俗よちやれ
と云よ日 ・
さゝゝ さゝゝよゝ さゝゝよゝ伊
よ蔑なとの方を云 ・さゝいで さゝいでるを
さゝいだすを
云 俗よさゝでた
と云を云 ・さはやぎ 病の平愈を
なとを云 ・さゝはゝ 俗よ
熊〳〵
云よ日 ・さうどき 騒を
云 ・さゝもぎ 俗よ出来きた
と云よ日 ・さな

なわ それなりと
云よおな ・さうぞき 装束を
云 ・さゝれがよ 業の通りと
云云なり
五音
・さぬつどわ 狭野津鳥ハ狭ハ真よ
て野津鳥ハ雉を云 ・さきみたま 綱魂
ハ其身を守て幸
あゝもり魂を云 ・さゞ社なる小浪ハちひ ・さかほがひ
酒樂ハ酒宴
して祝を云 ・さからつき 佐加美豆岐ハ酒を飽
まて飲おそふをいふ ・さくな
だわ 佐久那太理ハ真下垂よて
水の山より高るさまを云 ・さすやなぎ 刺楊ハ楊の
枝を出よさ
をを
云 ・さよつらふ 狭丹頬相ハ
丹の著たる 狭ハ發語よて丹つらふハ
如く赤く艶やかなるを云
・さばへなす 五月蠅成ハ五月の蠅
の如くと云こと ・さゝくゝろ 佐久久
斯侶ハ
拆鈴を多く著
たる鈴を云 ・さゝらめ 佐瑳羅餓多ハ ・さゝゝ 佐
錦の小文を云 よ
つふ張合たる
きを云 ・さるまゞき 不可然
きを云 ・さがなるの 岳性者
と云こ

と・さがよくきと云よ月・さなが〳〵然なのらん・さをぐ〳〵俗よ出をぎた・さこそいへ俗よ何と云て也と云よ月・さが云よ月

六音 巳

へゞ昔よりちか・それからそよ・さるものゝ云也さ〳〵よ・さてと云よ月・さるがゝこと俗よ放氣言と云・さ〳〵らえをとこ佐散良衣壯士ハ月の異名・さるべきまこそ前世の因縁なども云云・さわとこなき遁れやうなきを云

〇

二音

・ちづ倭文ハ古代の綾布を云・ちぬ細竹ハ小竹のことよて又薄葉なとを云・ちぬ思努ハよわ〻ハたわむを云・ちぶ斯賀ハそれゞゝと云ことなり・ちこ醜ハ其物を悪み罵て云

詞・ちき四忌ハちこよ月・ちゝみ茂ハちげ・ちゞ繁ハちげ・ちゞきを云・ちゞく自久ハ俗よ女らし〳〵男ら・ちゝ代ハ俗よ下地と云云・ちゝ愚〳〵しくなども云らし〳〵の云云・ちゝ馬鹿と云よ月・ちめ領するを云・ちむ深を・ちむ寒さのちむを云

三音

・ちこめ醜女ハおそろし・ちこめ恐許米ハ物を見悪き女を云・ちぼせ潮瀬ハ海潮の通る筋を云・ちとき粢餅ハ洗米のまゝよて春たる粢餅を云・ちと楚ハ若木のをはえを云・ちさを前夫ハ字義の如し・ちめ志太米ハ俗よ下地又ハ下ぢくろひなども云よ月・ちらを不知ハちら・ちのぎ凌ハ物よ支えられざるを云・ちみゝ思美弥ハ茂く・ちゝや四恵也ハ歎息の声・ちぬ怒々ハ勇なとよぬ・ちてあゝなりと云よ月・ちゝ下水ハ紅葉・ちゝら饒ひちなるさまを云・ちの色を云

詭言を云 ・志なめ匿かくを云 ・志てを造立るを云 ・志ざま造立さまを云 ・志いで為出なり ・志かけを造懸るを云 ・志ぶ為馴けるを云 ・志ぶく為かたてと云なり ・志おき為置なり ・志ぶく為成なり ・志あく為堪なり ・志めり風しめり足ひしめりなどと云しめりハ志つまるを云 ・志かゝ叱るなり ・志ど古早ものを訶なりを云 ・志てはや ・志とし あせよ志とゝなどと云ハぬ汁ひだるを云 ・志ぢめ俗よちゞめと云なり ・志ぼう志ぼうあげ志ぼういだしなどと云志ぼうハ志てもを云 ・志ぶく志ぶを云 ・志ぶび志のよわびたるを云 ・志ぶひ志ぶひなと云志ぶ ・志ぶ志ぶめしはのひひあゝそふを云 ・志ぶめた人を云

四音

・志ぶくつ襪ゞ足袋のことを云 ・志きなみ重浪ハ志げき浪を云 ・志ぶ

なゝせのなきを云 ・志ぶぎぬ白衣ハ僧の墨染衣 ・志ぶよ對して俗人を云 ・志ぶべゝ償徒者ハ最後を云 ・志げいと絃絲ハ悪絲を云 ・志めゆ標結ハ領を云 ・志ぶ志ぶし下延ハ下ハ志ものびかくるを云延ハ妻問ふを云 ・志ぶを立るを云 ・志ぶく下延ハ下ハ志ものびかくるを云延ハ妻問ふを云 ・志ぶを多泥流ハ赤の表を云 ・志ぶ志ぶし照るを云 ・志ぶ志ぶし見くるしきを云 ・志ぶ志ぶ之理夫利ハ後ろ ・志きゝく敷妙ハ織く ・志ぶ細布をいひ又枕の冠詞なり云 ・志ぶく敷布ハ頻なりを云 ・志なてる級照ハ嶮き山道なとの階々を立るを云 ・志ぶまひ進退ハ進みあるひハ退きつゝ在るを云 ・志めゆ深沈ハ志づのなりを云 ・志ぼさ潮左為ハ潮のきわゝを云 ・志ぬひ斯見 ・志きしま磯城島ハ大和の國の地名 ・志ぶ志ぶく白妙ハ白き穀の布

を云 ●ちえたげ 寛ハまばかがむるを云 ●ちぬのめ 細竹目ハ篠の群を云む社の切ハめこ ●ちのゝめ 夜の明ガたを云 ●ちのげね 死骸を云 ●ちぐかみ 俗よちぢかみと云日 ●ちほゝみ 其事よ馴たるを云 ●ちほれ もしほくむ社のごとくめるいをいふ ●ちほぐた ちほたれと云よ日 ●ちほゝ ちほゝみちをれたるさまを云 ●ちあつめ 為集こ ●ちなめき ちなやかなるを云 ●ちなゝし 不品なるを云 ●ちぶく ちぶわこ ●ちをかげ 腰かくるを云 ●ちをれ その癡鈍なるを云 ●ちとか たゝ俗よた地と云よおなゝ ●ちゝかゝ 俗よちゝかゝと云日 ●ちよいる 死ばかりよおぼゆるを云

五音

●ちづたまき 倭文手纏ハ倭文布を織る苧だまきを云倭文と戦と誤通へいやゝとは

ぼを云日 ●ちゝうたげ 踞ハ腰かけ居るを云 ●ちゝませが 知末世波ハちゝたらばこ ●ちかまがま 然為蟹ハ然ハあれとゝと云ちゝ ●ちはぶかし 之波夫加比ハ嗽を云 ●ちのびごと 誄ハ死者よ向ひて唱るかな ●ちれざかり 之奈射加流ハ階坂よて嶮き坂のあるとゝ ひめ詞を云 ●ちゝぶは 白香舟ハ白髪よ似舟と云らとこ ●ちらまゆみ 白檀弓ハ白く削たる檀木の弓を云 ●ちゝじゝの 鹿自物ハ鹿てふものと云こと ●ちゝぐゝろ 宍串呂ハ鈴を繁く著たる鈴を云うま ●ちながどち 志長鳥ハ息長鳥よて鸕鷀を云 ●ちそこなふ 仕損ぜるを云 ●ちあやまち 仕誤日こ ●ちれたう 上品なるを云 ●ちなおくれ ひふらしきをいふ ●ちわうごと かげまて人のうへを云を云 ●ちわうごち かげまて人のことを歎息し

てを云 ・ちどけなき 取繕はぬさまを云 ・ちさもぐん 車の簾のたよかくる帳を云

・ちぐ〳〵 映なく ちけるを云

六音 比

・ちわくめなそ 尾久米縄ハ尾ごめ縄 よて注連縄のごとく ・ちさつは

なね 下津綱根ハ家の柱の根を綱 ・ちさもふばぬ 白木綿花ハ木

綿よて造りたる花をいふ ・ちつくのたね 師付之田井ハ雫と云地の田家をいふ ・ちいこ

らか〳〵 ふを云 ・ちどてな ・ちどろもどろ 入みだれたるさまを云 ・ちぬう

の夫ゞ 之良奴里能鈴ハ銀沙 ・ちぐの使のし 之多敬乃使ハ黄泉

の使と云 ・ちなほどなる 其品の不相應 ・ちなへう

ぶれふるを云 ・ちづのちぐまき 倭文布の苧だまきを云

○夫

一音

・ちち 渚ハ水中の沙のあらはるゝ所を云

二音

・ちき 結ハ網を造るを云 ・ちく 漉ハ紙を ・ちけ 須氣ハ助カもるを云

・ちこ 籠子ハ行李を云 ・ちぐ 為便ハ方便のごとく ・ちめ 皇ハ天皇を申たてまつる

・ちさ 従者ハめしたゝふ下男女を云 ・ちし 誦ハそらよむを云 ・ちき 好事を詞

よて多くハ好色のことをいふ

三音

・ちけき 寸鶏吉ハ透の延言 ・ちめ 天皇ハ天子を申奉る ・ちが

須我良よりハ夫がゝと云 ・ちし 須酒師ハ進むことゝ ・ちぐ

ハより夫がゝと云より日多集ハひらかゝ集るを云 ・ちがる 酢軽ハ蜂を云 ・ちさび 須佐備ハ競進を云

●もがそ 菅曽ハ菅を細く割て蠅は
らひの如くよせしを云 ●もこる 食薦ハ賜を供る座なり
むしろを云 ●もくわ 村主ハ古ハ職号なり
後ハ姓氏と成り
●ものこ 箕子ハ椽の
ことなり ●もくみ 俗ハもくみ居る又ハ寒氣
くむなり ●もげみ 老人の歯のなきにつきを云ハ
と云を ●もぶん んの志、
のこ むを云 ●もかしたばかり 炎
もかりを云 ●もまし
洗ふ ●もまふそふを云 ●もぐろ 俗もなくんの
負ドとあり ●もぐ
もくむを云
●もべ 入などのもくるハ
そのまゝ格ぬを云 ●もべし 市衣をもべしなど
云もべしハ衣をぬ
ぐもなくを ●もがる 露もがる杖ハもがりなど
べゝかを云 ●もかる いかもかるハ貫かるを云

四音

●もべなき 為便奈伎ハ
きやうなきを云 ●もさ 冷ハ俗ハ拍
子ぬけのさ

須賀志賣ハ清々し
き女といふ云なり
須麻須夫
ハ窪々し
●もがしめ
●もぶ 須麻須夫
ハ窪々し
●もを 陶器ハ尾器
の類を云 ●もつき 陶器ハもを
ものよ同
●もがる
摩肩ハ同
肩を云 ●もばれ 夷ハ鼻
液を云 ●もはやわ 楚割ハ魚肉を細
作りよして塩乾よ
もゝを云 ●もがなく 須可奈久ハを
げなく ●もかやの 速よ同 ●もみ
つき 住馴そむ
るを云 ●もげなく 毎真なるを云て情な
くと云ものを近し ●もいが
い 透垣
なり ●もぎく 次ゝ
なり ●もさめぬ 賞説セ
ぬを云 ●もくよう 潤ひ
なく
直なり
を云 ●もきかげ 透とほりて又
もかげを云

五音

●もがしく 清々ハ潔
きを云 ●もやつ
ば〳〵 其奴系と
云〳〵 ●もきまなく 急ハ速
よ同 ●もやつ
なきを云

六音

・そがるのたち 須我流横刀 物を切断利刀と云名し

むはれ 末摘花 紅花を云

・をべ〳〵 垂髪 手背 女の垂髪のことなり

○せ

一音

・せ 兄 吾兄 と同じ

二音

・せこ 勢子 夫 男を云 親みて云称なり 又男どもをいふ

・せな 背名 勢子 同

・せと 迫門 海のせ

・せど 家の背門 門を云

三音

・せくつ 僕 背のかがまれるを云

・せうと 兄人 世武為便い為 べきまぼ所を云

・せぐくまる 蹋かがまるを云

・せむかもな 為べきを云

○そ

一音

・そ 曽 礒 を云

・そ 衣 服

・そ 麻 あさを云

二音

・そね 碪 石まゝ の高地を云

・そき 遠 伎 遠く 離れるを云

・そひ 酸 酒を

・そゝ 遣 そゝ るを云

・そや 征箭 兵士の つ矢を云

・そば 稜 側 物の 輪を云

・そは 曽 興 物の 鳴る音を云

・そよ 曽 興 物の 鳴る音を云

・そよ そよと云 そよと云

・そと 伝 そよと云

・そて そなると云

・そし いひそし 好そし など のそし 過失を云

三音

・そばひ 蘇婆比 社 そわぐを云

・そとも 背面 ふを云

・そがひ 背向 後 向を云

・そて 曽許 底 ずく

・そこど 曽許婆 多きを云

・そこら 若干 かき ずなきを云

・そゝき 蘇々岐 草 なれるを云

・そゝけ 曽々介 髪な

とのみぐれ
なるをいふ ・そこね曽己祢ハ損
じたるを云 ・そほ赭ハ赤
土を云 ・そび
ゲ 聳ハ細く ・そらなあぐ名の
うきを云 ・そなれ到る
を云 ・そよめそ
よ ・そく やと云云 ・そびへそびな
よ用 ・そぶり其風神
を云
・そよろ簾なとよ物のさ
はやかなる事を云 ・そなく その方と
云云 ・そへ よ 俗
よ
・そぐろ そぐろ
よ用 ・そらぢわ
と云云 ・そらめ見そこなひ
のこと ・そはめ
側よりうか
るをいふ ・そばむ側よ向
くを云 ・そほれ滅儀なきを
云 ・そく き
水のちちか
かるを云

四音

・そきをち曽岐袁理ハ遠ざ
かり居るを云 ・そきだく曽岐太久か
そこばくよ用
・そこら曽己良久ハそ
こばくよ用 ・そでか袖易ハ袖を
かはすを云 ・そき

たつ 退立ハ遠く
離れ立を云 ・そぼふる俗よ雨のふぼく
ふると云よ用 ・そびやぎ
細くうきか ・そなが それなが
たちをいふ ・そなそい そこそい
よ用 ・そこ そこ
ばづきそばみゆが
みくるを云 ・そく 俗よいぢさま
はをと云云 ・そく めく
いそぐしけよ
立まはるを云 ・それなわ 俗よそれてあ
るとよ云用

五音上已

・そらつひこ虚空彦ハ虚空よ住るも
よ底之國ハ黄
泉のふを云 ・そこのく
人と云ことく ・そば 觚稜ハ和合
よそく かぞく
もるをいふ ・そびのかし進催を
云 ・そらかぞふ天數ハ
ぬを云
らぬかほ
もるを云 ・そらおぼれ知さな
きを云 ・そつひこ虚空津日高ハ
山陰道ハ字
義の如し ・そとものみち
太子の称し
・それみぐれ 面風なとのあ
あらしきを云 ・そく おぼ

めきそ〻おぼれ　よおなし　・そびろさむきオ　むを云　・そてよ法セて
を俗よりふ　と同主　・そらおそろしく　我ぶんよ耻てお　そろしく思ふを云　・そでか
へしつゝめる　蘇泥可弊之都追宿ハ衣　をかゝしてめると同云　・そらみつやまと
のくに　蘇良美都夜麻登能久迩ハ饒速日命　の虚空よて見たる日本國と云云　・そらよめつ
きゝゝやう　天よて見るやう　よおりふを云

○た

二音

・たち　舘ハ旅の家を云　・たく　楮ハ木綿と同物　・たく　楮ハ　めことよて紵布　・たる　鐏ハ酒を盃よ注　・たる　田居ハ田舍をいふ
の類をすべて云　・たし　多斯ハ惜なるを云　・ため　揉ハ木竹の曲れるを　・たき　多岐ハ見
火よやきて申るを云

たき　建たきなと云て欲るを云　・たゐ　回ハ曲ると云　・たく　多久ハ引上るを云　・たく　
狂ハたけん　・たわ　多和ハ山の低くたを云　・たぶ　給ハたまふを云　・たへ　妙ハ曲妙
たぶ　給よ　・たへ　妙ハ曲妙なるを云　・たみ　舌だみ詞だみなと云　だみハなまりを云

三音

・たくわ　吐ハ歌　・たまき　手纏ハ後世の　・たをり　多乎理ハ山の峯の
小手の如くなるもの　・たをり　多乎理ハ山の峯の形をいふ　・たぐさ　神糸の
とき手よりもて章ふ小竹の結ひさ形をいふ　・たづと　耕人ハ田作る人を云　・たかし　敏頭ハ大
カの柄のことく　・たかし　敏柄ハ大　・たづて　多太手ハ正真のことく　・たかねめを云　飴ハ　・たちひ　立氷ハ氷の立たるを云　・たぎ　當藝新ハ今世の船のかちを　・たいし　能ハたきいふ　・たまけ　掩摩談ハ玉笥よて飯を盛る器を云　・た

むで 手向ハ神ヨ物奉るを云 ・たむけ 手祭ハ今ノ山の峠のことなり ・たゆひ 手結ハ手纏ヨ ・たつき 田舟ハ手依りをゝふ ・たつき 鍬ハ刃の廣き斧を云 ・たぐち 路程、道ハ直なり ・たぶて 多夫手ハ礫を云 ・たぶせ 田廬ハ田の中ヨリ造るる庵を云 ・たかせき 舸ハ小く深き舟を云 ・たまき 手珠ハ手の飾ヨリ自玉を云 ・たはた 斑ハ犯濫を云 ・たゐき 緩ハ俗ヨリ多行伎ハ ・たどき 多々佐ハ堅きヨリ ・たばり 賜ハ たまつきヨリ ・たば 正香ハ正しき有様と云ことヨリ ・たどり 多度利ハあちてちとなるを云 ・たばり 把ハ結ひたばヨリ ・たけび 建ハ荒ひ叫ふを云 ・たゝへ 湛ハ水の満てあるを云 ・たむる 群ハ むらかるを云 ・たふさ 手頭ハ俗ヨリ ・たくへ 多具陪ハ添るを云 ・たわゝ 多和々ハ撓をゝふ

・たゝし 足ハ満足なるを云 ・たまゐ 墓所の屋を云 ・たゝび 給ひと云ヨリ ・たうべ 飲喰こと を云 ・たゝハ 俗ヨリ素なるを云 ・たゝバ 紙ヨリ ・たゝバ ヨリ

四音

・たこむら 多古年良ハ腕を云 ・たちがみ 髦ハ馬のふがみを云 ・たゞむき 腕ハうでのことを云 ・たまくし 玉串ハ手向串ヨリ神ヨ手向る物を身ヨリ ・たちかゝ 田租ハ田畑の年貢を云 ・たまくゝ 玉櫛ハ水を盛ヨリ ・たまくゝ 玉鉾ハ又ハ汲器なり ・たなを 手末ハ手末を云 ・たむだき 手拱ハまをこまぬくを云 ・たなそこ 掌ハ掌中ハ手のひらを云 ・たなゝ 指間ハ指のまゝのことなり ・たまもの 貴ハ賜へる物を云 ・たてもの 立物ハ送葬の時土ヨリ人馬の形など

造て墓の廻り
よりる物を云 ・たむかし 多弁伽毗ハ俗よ
手童ハ小 ・たかだま 竹玉ハ竹の管のやう ・たつごも
童を云 よ造ル玉を云
ハ筵をはき合せて屏 ・ためざけ 餅酒ハ味 ・たむざけ 醸酒
風の如く立るを云
ため酒 ・たくなは 栲縄ハ穀の木の皮
よ用 縄を云 ・たかはら 機ハはたのこ
と ・たきぶさ 頂髪ハ俗よ云 ・たばしり 手走ハ疾
たぶさのこと ・たちる 垂乳為ハたちちねよ用
ちね 帯乳根ハ赤子を育つ ・たらちし
月日を足しめ成人を云
けなは 酎ハ酒宴の ・たしなみ 惚苦ハ苦
最中を云 むを云
たちくゞ ・たとほみ 多騰保美ハ多ハ發 ・たちくき 立久吉ハ高知
るを云 語よて遠きを云
ハ称辞よて知ハ志 ・たかしる 猶預ハたゞ
ろしめ去をゝ ・たゆたふ 猶預ハたゞ
よふを云 ・たわすれ 手忘

ハ手ハ發語よて
わ去ろハを云 ・たはこと 狂言ハたは
けごとを ・たはわざ 多波和射
ハたたけ
わざを ・たまきる 手握ハ手を
拔ハ切ろを云 ・たづく 多志陀志
ハ慥々を ・たま
まゐら 玉鄕音ハ歯
なるを云 ・たまさか 遇ハたま
たまよ用 ・たちかき 擊カハ
太ハ打
のこと ・たゞは 偉ハ満足へる
ものを云 ・たかむな 筍ハ竹の
子を云 ・たか
かく 高座ハ天皇の
高御座を云 ・たかゐく 多加由久ハそら
を言く形を云 ・たま
なは 玉垂ハ玉を緒よ貫てた
れを云 故よ表と云ぐ ・たまの 玉緒ハ玉を
貫く緒を云
・たまのほこ 玉桙ハ玉をかざ
ぼこ ・けたるハ身
ぬ 多久豆怒ハ栲津布よて
楮の皮よて織る布を云 ・たくつ
くなは 栲縄ハ楮の
皮の縄を云 ・たかき 多加須伎ハ神供なとを載
る言五寸五分口徑七寸よ

て足の角たる墓を云　●たとろ田地ハ字義の如し　●たちぎ〳〵俗よいふ立ぎ〳〵ハ可

●たつゞみ鼓を鼓の如くうつを云　●たちこみ人馬などの多く立かさなるを云　●ため〳〵とさめ調ふるをいふ　●たゞあり俗よひとゝほとと云ハ可

●たぢろぎ動きさわぐを云　●たけだち人のせい丈　●たそぶみむ考

ひもはゝみもきぬ衣を云

五音

●たゝみだけ多斯美陀氣ハ立繁竹を云　●たこのおがみ高麗ハ高き所の龍神を云　●たつのゆみ手束弓ハ手まつかむ弓と云ことゝも　●たかつかみ高津高津神ハ虚空の神ハ　●たかつとめ高津鳥ハ虚空を飛ふ鳥を云　●たかきい

て雷のことも　●たむけぐさ手向草ハ神ハ向への家ハ高き所　●たまあ

は、霊合ハ心の合ハと云ことゝ　●たてまゝ奉出ハ物を奉るを云　●たなら多奈不知ハ惜み　●たびまね遍多ハ志げく交ることを云　●たへの

ぞかへ足ミぬを云　●たびまね遍多ハ志げく交ることを云　●たへの

ほよ持乃穂ハ白妙の色ハと云ことゝ　●たづさはり携ハ手をかくるを云　●たを

とほゝぐ徘徊ハ立めぐるを云　●たゞむかふ直向ハたゞちハむかふへるを云　●たづ

たづゝ多豆多頭思ハたどゝ可　●たかゝ高々二ハ仰き申むきの詞ゝ　●たち

あざわ立阿射里ハ俗ハ立あきるとゝ云ハ可　●たなぎらひ

くあざわハんいられるをいふ　●たきそなゝ持寸ナ名相ハ引

棚霧合ハ棚引くを云　●たらし立ハ直ハ　●たちどころ立ハ直ハ

ゝわ合たるを云　●たきそなゝ持寸ナ名相ハ引　●たらし

みよ足御世ハ満足なる所代と云ことなり　●たそも立ハ直ハ　●たちどころと云ことゝ

ゝく輙ハたやすくハ可　●たびろかを飄掌ハ水ハ溺るゝ者などの手を上てひらめかせを云

・たかばかり 尺ハ今の物を云 ・ためつもの 味物ハ美味食物をいふ ・た

まむすび 結縄ハうかれいばるの魂を結ひとゝるわさをいふ ・たゝなはる 畳有ハ

ゝ重ねる ・たてあかし 炬火ハ松の火を云 ・たづかなき 多豆

何奈伎ハ ・たつゝまひ 殊儛ハ東舞を云 ・たまちはふ 霊治波布ハ霊

幸よて神霊の幸ひ ・たまきはる 霊魂ハ阿良多麻来経よて年月の移ゆくこと

を云 ・たまかづら 玉鬘ハ玉を貫きて頭よかくる鬘を云 ・たまかつま 玉勝間ハ玉ハ

美称よて勝間ハ堅くみたる籠をいふ ・たゝなめて 楯並而ハ楯を並べてと云ことゝ

・たなつく 立名附ハ畳ハ附ハ ・たゝみこも 多々美詩母ハ畳の菰を

云 ・たくふすま 持衾ハ楮の布の衾を云 ・たゝうかみ 畳紙ハ今の畳のはな紙を

云 ・たをめかし 撓わむるを云 ・たちなゞか 倦ると云意の詞 ・たゝ

ぶまひ わとさまと云意 ・たゞゝ さゞらならぬを云 ・たちなゝ 立列るを

い ・たゞなゝに 倦よ一通なゝめと云 ・たゝまぐき てあるまぐきの約言

・たゝきてと 倦よとゝ云なこと云る日 ・たゝわやがひな 多和夜賀比那ハ

六音記

と 誰之能人ハいはゞ社の人と云意 ・たちとほる 徘徊ハ立めぐ云を云 ・たゝめの ひ

しき 田そしきまて平生よた ・たゝ 倦ハやうなきを云 ・たゝ

がひてまのゝをいふ ・たゝなる 何事もなきよ ・たのもゝ どゝろ 私み不とゝ云意

と云 ・たそふれまゝき 黄昏ハ ・たゝおきが 手紙を云 ・たなすゝ 手末のみつぎ

之調ハ女の手よて造る緒・たなごのおほみよ手長能大御世ハ満布の類の貢物をいふ 足長久の御代を云

ち

一音 ・ち茅ハちがやを云

二音 ・ちおち乳母ハ子よ乳をのまもるおちのことを ・ちか〳〵税ハ年貢運上物の類をいふ ・ちだま血魂ハ上代の家の竈處の上の煙を出をてゐの名を ・ちはひ千羽日ハ幸ひを ・ちつけうまれ子よはじめて乳をのまもるを云

四音上巳 ・ちいのみ知智乃實ハ銀杏樹の實を云 ・ちごおひ稚子のを ・ちかごと誓言を云 ・ちはやふる千磐破ハいちはやぶるをまてあ〳〵ぶるをいふ ・ち

かまもるわ近者てまもるを云 ・ちかおとわ近者ておとるを云 ・ちかなが〳〵近なご ・ちかどなり隣家を云 ・ちか〳〵づ〳〵力をえた ・ちのらを ・ちまきのほこ茅纏之矛ハ柄を茅まてまきたる矛ハ千箭之敦ハ箭を多〳〵入る敦を云 ・ちはて神樂の時の採物 ・ちか〳〵ぐるまカ車ハ物を積てひ〳〵車 ・ちつかぶけのれくことなきをいふ ・ちく〳〵のおきぐ千座置座ハちく〳〵のおきとまおなぐ数の多きを云 ・ちく〳〵のおきぐ千座置ハ被物を居置臺の

つ

二音 ・つき調ハみつぎ物を云 ・つら葛ハ蔓を云 ・つら絲ハ弓の絃を云 ・つと曩ハ魚菓の類を物ハ包ものゝ名ハ土産を云 ・つゑ丈ハ十尺を云 ・つ〳〵列ハつ〳〵

なりを云 ・つら 頬ハ面のことにて人よ云ハさま〳〵なりを云 ・つと 風ハ早朝
を云 ・つや 艶なり色を云 ・つゝみ 菓子などをつまみとるを云 ・つきまつきはゝ つきなどを云
つきハ其さまを云

三音

・つくだ 營田ハ稲の類を云 ・つみぞ 鐔ハ刀のつぞのことを云 ・つ
まで 都麻手ハ角枕 ・つむぐ 紡ハ綿を糸よ ・つなで 韋紐ハ舟
あり 杙木を云 ・つくろひ 修理ハ造作を云て物をとゝ調ふを云 ・つば〳〵か 委曲ハはぶさ
をひく ・つゝき 都追伎ハ突々よて俗 ・つらゝ 都良々ハ連て連る
縄を云 ・つくと云 ・つとめて 旦ハ夜あけてとをいひてその明旦を云 ・つらなめ 都良奈米ハ連
を云 ・つらゝ 露しづくなどの氷 ・つぶ〳〵 圓ハまるきを云 ・つゐ
ぢ 禁地 ・つかふ 米銭又ハ調度の類を用るをつかふ ・つゝき 接ぎなきと雑義なると
よ云 ・つゝみ 今の風呂敷類の物をいふ ・つよわ 強くなるを云はよわ
よおそふなどいふハ

つよみよおそひてかよまるを云 ・つふれ 破れ裂るを云 ・つゞ 破れ裂るを云 ・つゐ 中よ高い
・ついゐ 突居よてかうをめる居るを云

四音

と云 ・つとめて 旦ハ夜あけてとをいひてその明旦を云 ・つらなめ 都良奈米ハ連
ね並ふ ・つゝく 熟ハねんごろなるを云 ・つゝのまし 東間ハまぢしのまを云 ・つ
てでと 流言ハ風説のことなり ・つゝとよふ 留連ハ海路をこゝかしてとゝ住ひなぐよふを云 ・
つまさき 爪ハ爪のさきを云 ・つまぐし 津間櫛ハ歯のあらき櫛を云 ・つゝしる
豆波志留ハ口中の津液をいふ ・つきゆみ 槻の木よて造れる弓をいふ 槻ハ樫の類よて皮なぐらの
なり樫ハ皮あゝ〳〵し ・つはもの 兵ハ兵器を云 ・つみいし 柱礎ハ柱の下よ置る石を

い・つぶなき　踝ハ足のくるぶしを云　・つふぶ〜　踝ハつぶなきよ日　・つたづたなるを云　・つちくれ　土塊ハ土のかたまりを云　・つぎわふ　次嶺経ハたゝなわたゝきたる嶺を経て行と云ことくを云　・つまびく　爪引ハ弓の鳴弦を云又琴をかゝそめよひ　・ついばむ　啄ハ鳥の物食を云　・ついがき　築墻ハついぢのことし　・ついまつ　松明ハたいまつをいふ　・つけもの　塩などまて漬たる菜類を云　・つぶやく　撓　・つるうち　鳴弦を云　・つめとき　ひややかなるを云　・つやく　のわろきを云　・つやか　なるを云　・つきまぐ　まぐのなきを云　・つくがさと　彩色絵を云　・つぶち　伴なふ　・つみなく　雑なきを云　・つやつたし　つよくたしかなるを云　・つゝづら　臂杖のことし　・つなひき　牛馬などの引かゝよゝぬやうまきてたまひきを云　・つめくゝふ　俗ハつめくくたるを云ト日　・つきなく　たつきなきを云　・つゞきをつゝふハ　ときまをうゝふを云　・つはぎ　鶴の脛のやうよ裳をたゝかゝげて脛をあゝはしたるを云　・つりもの　釣殿ハて池のきしなどよはたくわかけたる亭をいふ

五音

・つぶれいし　都夫礼石ハ圓らなる石を云　・つきゆる　免調ハみつき物をいふ　・つゝまとび　都々麻波受ハ都々美奈つみなくと日云　・つゝみなく　隅心なきを云　・つゝがなく　無恙なり　・つゝあるる　恙ハ恙あるを云　・つかさめし　任官なり今ハ秋の除目を云　・つぼきみれ　肩臂などつ一株づゝ生立て蔓生なゝぬを云　・つきあふ　言ハいはで肩臂などつき合て合点さもらを云　・ついでして　次手を得てとこと云　・つまびら　書物の不審の所ハ風ハて印を付

るを云 ・つくべとを従者を云 ・つくわいで作畧を云 ・つみ西瓜罪を免なわ又難あるを云 ・つくもがみ江浦草の如くみだれたる髪を云 ・つくもがみて難なくせめをもいふ

六音上已

・つうひよほろ仕丁ハ官司にて ・つくのびびと客作兒ハ ・つかさをとる解官ハ役をとり上るを云 ・つるはうま傳馬ハ在方より駅路より出る役馬を云 ・つゝみぶくろ物をつゝみて持 ・つあろく袋を云 ・つきづきしく似合しきを云 ・つくよみを〻月讀壯子ハ月のことを云 ・つきびとを〻〻月人壯子ハ月のことを云 ・つるぎのたかみ劔頭ハ劔柄を云 ・つむことなく都々弁事無ハ恙なくを云 ・つれなしつくわ志ぬ点をるを云

・つまはぢきして物をよくみうゝみて瓜をくびくを云 ・つはものよそひ隊仗ハ武器を備へて警固をを云

○て

一音

・て代ハ酒代玉代なと物の直を云 ・て手ハまかく女子なと手跡を云 ・て手ハ織子深子なとそのわざをする人を云

二音

・てこ手兒ハ末子を云 ・てこ而者ハ力ハ ・てな豆奈ハ豆なと云 ・てへといへ ・てげ天氣を云 ・てゝ父を云 ・てまどゝ伝ハてまいるなど云 ・でゐ出居ハ儀式の時出て居る形を云人を云 ・てこな手児名ハ乙娘を云

三音上已

・てぶゝ提夫利ハ風俗を云 ・てこな手児名ハ四 ・てく社ハ

鳥網の媒 ・てみづ 洗手水ハ手水ニ ・てうづまれ ・てびと 手人ハ色
鳥をいふ
色の物造る職人を云 ・てかき 書ハかく人を云 ・てかく 俗ハまぐひをもちと
云ふ ・てつきまのさ 衒ハ賣物を人ハほめわ
云日 ・てつさし みせてうるあるくを云
・てつかく 豆豆可良ハ手自なり ・てをおく 被傷ハ疵を云 ・てつく
うく呂を云
・てつくり 手作ハ手織の布のごとし ・てるかく 照かハ鮮明なる布を云 ・てのごひ 手巾ハ手
拭 ・てをもるまを合せて拵るまて包わぶる時のわざも
又まをおしもりなどを云ハほそらる狀を云
・てづかしまはきを云 ・てさぐり 物のまあるを云日 ・てた
づさへ 携手ハ手を云 ・てをもまま 手母須麻ハ手をいそがしきを云 ・てを
あぐるまを配て云ふ日 ・てをわかちまをわけて ・てをつく 俗ハ徒

よせる云 ・てまさぐる 物をそなへあそぶを云 ・てをのはづめ 鈐はづめまて
家作の初を云 ・てびきのいと 蚕の名を云

○と

一音

・と 外ハ内ハ対てそとを云 ・と 門ハ海ハてをかハ国ハ出入もる構不をいふ ・
と 處ハところを云 ・と 利ハとことを云

二音

・とも 所從ハ從者を云 ・どち 度知ハ俗ハ同志と云ふ日 ・とも 跡見ハ獵の時
鳥獸の跡を見る者を云 ・とふ 等布ハとの約計なり ・どく 跡杼ハ表く音を云 ・とく
鞆ハ弓射る時腕ハ纏ものを云 ・とね カ祢ハ仕ゆる男女を云 ・とめ 戸賣ハ老
女を云 ・とべ 戸辨ハとの日 ・とじ カ自ハ家主の女を云 ・とも 部ハ一群を云

・とゝめ見とゝめ喚とゝめなと
のとゝめい得るを云 ・とゝみ俗よ急と
云よ同 ・とは俗よ常
同 ・とがよ科よて俗よ雑と云云
こと多し

三音

・とこよ常世ハ三品あり一ハ常とはよ不変を云
一ハ常闇を云一ハ絶遠なる地をいふ ・
とゝむ騒動ハ鳴り ・となかなかを云 斗那詞ハ海 ・とへば登倍婆いとい
騒くを云
へばの約 登陀流ハ富足よて人家 ・とをゝ等乎 乎ハ
ゝ
ゝ
ゝ

とじくゝ 登妣久々ハ恥くゝいるを云

• とこなつ 等許奈都ハとことはのどかなるを云

• ときじく 非時ハ時ならぬを云

• としたち 年之葉ハ毎年を云

• とのしく 等乃斯久ハ

• とこしく 常敷ハとこしくなるを云

• とこしく 常之倍ハ恒なるを云

• ときじぬ 解衣ハ衣の解たるを云

• とをつゝ 十列ハ東遊の舞人の十人なるを云

• とばしり 水のちるを云

• ときめく 時を得たるを云

• とぎり 俗ハ物をとゝのつぐなど云取次ハ同

• とのばり なる木の實のなるぬ事を云

• とのつぐ 殿たちと云ハ同

• とがなく 雞なき殿たちと云

• とばかり 志ばしと云ハ同

• とり こゝみをとゝのへる

• とかへる 鳥擬ハて雞となるをいふ

五音

• とこよもの 常夜往ハ常闇を云

• とこよたち 常世等ハ常とはゝ不變人と云こと

• とほつかみ 遠神ハ凡人とハ遠く遠なる神と云こと

• とほつおや 先祖ハ字義の如し

• とゞろこ 動鳴ハ轟かしハ同

• とほのくに 等保能久爾ハ遠國を云

• とみのこと 急事ハ俗ハ急ぎ事と云ハ同

• とゝまねく 歳真尼久ハ幾年も重ねを云

• ときつかせ 時風ハ潮時ハ風を云

• ときはなの 常磐成ハ常ときはなと云ハ近し

• とゝさくる 問放流ハ問ひ語ふをいふ

• いまかくも 取捨ハ俗いはれとを云

• とこよもの 等許余物能ハ常世の國の物を云

• とぶさ 鳥總立ハ木を切てその木の末を折てゝその株のあとゝよさぶを云

• とほつひと 遠人ハ遠き所の人を云

• となみはる 鳥網張ハ鳥網をはる事を云

• とわはづし 俗ハ陵なくゝ云と同

• とわたて とわたてゝ云ハ同

• ときとゝ 時の勢を人ゝ云

るゝを云 ●ところを定 安住をするを云 ●とぢこもる 閉籠 ●とゞまる なり

ゆうかゞい 夜を云 ●ところおき 座をゆづるを云 ●ところつきわ 辭讓を云

●ときわはやし 俗よをてしやをとゝを云 ●ときわはなちときわはな ●とゞもを云

きのしと 時よあへる人を云 ●ときあへず 直よ其俗と云云 ●ときのみの

夜具 夜具を云

六音記 ●とつかつるぎ 十拳劔ハ劔の身 ●ところのくま 十束の十束あるを云

常世國ハ三品あり 一ハ常夜國一ハ常世國一ハ底依國 ●ところのなみ 常世之波ハとことはる

不變波を云 ●ときはぐさ 豐旗雲ハ大なる旗の如くなる雲を云 ●ときのみか

ど 遠乃朝庭ハ大宰府の類の國府を云 ●ときはもゝろき 遠天皇ハ先代の天皇を申奉る

●とよのあかり 豐明ハ御酒を食て御顏のあかるを云て宴の名となるなり

ところ 俗よながい 夜躰のまくの略服を云 ●とのゐもが 世話をし物をとゝのふるを云

まかなし ●とはぐがうち 俗よ云 ●とのみやはこ 伴造ハ其部の長なる人を云

●ときぞとなし 時其友無ハ俗よはとことを云 ●とよさかのぼり 豐榮登ハ朝日ののどかよさかえのぼるを云

なくと云よ日 ●ときをくもなし 時不終鳴ハやむ時なくよ鳴を云 ●とりのあそび 射鳥遨遊

ハ鳥猟を云 ●ときまかくさま 俗よ彼是と云よおなし ●ときまどはせる

俗よなよはぐ 社なると云云 ●ところのながなきどり 常世長鳴鳥ハ常闇の時よ鳴し鷄

と云こと なり ●ときじくのかくのこのみ 非時香菓ハ橘を云 ●ときわ

のごちのみやつこ 主殿寮の下級官を云